

2017年8月26日

ご挨拶

日本外傷データベース (JTDB) は日本外傷学会と日本救急医学会によって 2003 年 10 月に設立され、そのうち日本外傷診療研究機構 (JTCR) によって運営されています。しかしながら、現在においても JTDB の学術的な企画・運用は日本外傷学会トラウマレジストリー委員会が行っており、実質上の活動は本委員会が実施していると言っても過言ではありません。JTDB は日本全国における外傷治療の詳細な臨床データを収集し、診療の実態や標準的な治療成績を明らかにすることで、本邦の診療の質向上に貢献することを目的としております。

JTDB では参加登録施設がインターネットから外傷症例の情報を登録しています。入力項目は患者初期情報、病院前情報、転送情報、来院時病態、初療時の検査と処置、診断名と損傷重症度、入院退院情報の各項目の合計 94 項目に及び、そのうち必須項目は 52 項目です。現在、北海道から沖縄まで全国 263 施設から、約 30 万症例の情報が JTDB に登録されていて、自施設から入力したデータはいつでも自由にダウンロードでき、個々の施設のデータベースとしても活用できます。また、2008 年から毎年クレンジングした匿名化データを JTCR 団体施設に送付することによって、外傷疫学研究のデータベースとして利用して戴いております。

本年、個人情報保護法の改訂に基づいて倫理指針が新しくなり、JTDB に症例登録をするために各施設の倫理委員会を通すことが必須になりました。JTDB は運用を開始して以来、倫理委員会を通すことを必須として来なかった経緯があり、昨年からは研究を前提にする場合には倫理委員会を通すことが必要との方針転換をしたばかりでありました。2017 年 5 月末から倫理指針が変更となったために、本委員会では倫理委員会を通していているか否かを参加登録施設に郵送物やメールを用いてお聞きしている次第です。誠に恐縮ですが、倫理委員会を通していない施設におかれましては、参照資料を本ホームページにアップロードしておりますので、施設ごと倫理委員会を通して戴き、日本外傷学会事務局まで jast@shunkosha.com その旨ご連絡戴けますよう何とぞお願い申し上げます。

日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会
委員長 齋藤大蔵